

保健体育科学習指導案

授 業 者 山 持 陽

指導日時・教室 平成 31 年 1 月 17 日 (木) 5 限目
対象生徒・集団 高II年生 男子後半 56 人

1 単元名 サッカー

2 単元の見積

- 2対2のミニゲームを通して、ボールを持っていない(オフ・ザ・ボールの)状態でのプレーへの関わり方を理解し、実践できるようになる。
- ミニゲームの外からオフ・ザ・ボールの選手を観察し、課題を発見して教えることができる。

3 指導に当たって

(1) 教材観

日本では、Jリーグやサッカー日本代表などの国内で行われる試合をはじめ、海外の試合についてもテレビやインターネットでの中継で観戦することができる。とりわけ広島県ではサンフレッチェ広島の人気が高く、その活躍を見ている生徒も多いようである。

サッカーは11人制のゴール型競技である。フィールドプレイヤーは、ボールを足で扱う場面が多いことから、個人技術の差がプレー内容に大きく反映されるスポーツである。また、ゲーム中は状況が刻々と変化するので、周囲の状況を観察し、様々な選択肢の中からプレーを選択しなければならないが、個人技術に長けていないプレイヤーは、足元のボールに視線を集中させている時間が長く、プレーの選択が容易ではない状況に陥ることが多い。攻撃側のボール保持者をサポートするために、オフ・ザ・ボールのプレイヤーにおいては、ボール保持者のプレーの選択肢を増やすための動き出しが求められる。守備側プレイヤーについては、ボール保持者に最も近いプレイヤーはプレッシングをするが、その周囲の(オフ・ザ・ボールの)守備側プレイヤーは相手の選択肢を減らすように周囲の攻撃側プレイヤーへのパスコースを塞ぐことが求められる。

(2) 生徒観

本時の対象生徒は、活発な生徒が多く、特にゲームに対しては意欲的に取り組む傾向がある。一方で、ゲーム中のプレイヤー同士の連動性は高くなく、個人技術に長けたプレイヤーがボールを保持する時間が長い様子が見受けられる。この原因は、数人、あるいは多人数でのグループ戦術を把握していないこと、また個人技術に長けていないプレイヤーがボールを保持するのを避けていることであると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、グループ戦術への理解のために、2対1という数的優位の状況下でのオフ・ザ・ボールのプレイヤーの動きを確認した。本時では、2対2の数的同数の中で、攻撃側チームのオフ・ザ・ボールのプレイヤーにはパスを受けるための動き出しを、ボール保持者には周囲の観察を課題とし、連動したプレーによりゴールを奪うことを目標とする。一方で、守備側のオフ・ザ・ボールのプレイヤーには、ボールに最も近い守備側プレイヤーと連携し、チャレンジ・アンド・カバーによってボールを奪取することを目標とする。

4 単元の指導計画(総時数12時間)

第一次	<u>オリエンテーション・ゲーム</u>	1 時間
第二次	<u>個人技術・グループ戦術</u>	5 時間(本時2/5)
第三次	<u>ゲームを中心としたチーム戦術の実践</u>	6 時間

5 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の評価規準

1. オフ・ザ・ボール時の動きを理解し、実践できているか
2. 周囲の動きを観察し、コーチングができているか
3. 協力して活動できているか

(2) 準備・資料等

ビブス、ホワイトボード

(3) 本時の展開

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入> 集合・点呼 本時の説明</p> <p>準備運動</p> <p>コートづくり</p>	<p>○本時の課題を確認する ・オフ・ザ・ボールのプレイヤーの動きを確認する</p> <p>○準備運動 4対2、3対2のボールキープゲーム</p> <p>○適当な位置にゴールを設置する ○ゴールはミニゴールを使用する</p>	<p>・チーム内で協力して、素早くコートをつくることができるか</p>
<p><展開> 2対2での攻撃練習</p> <p>5対5・5対6のミニゲーム</p>	<p>○オフ・ザ・ボールのプレイヤーの動きを確認し、パス交換をする ○2人組は固定せず流動的に変える</p> <p>○グループ決めをし、準備ができたチームからゲームを始める</p>	<p>・課題を意識しながら活動できているか ・グループ内でコーチングの声掛けが行われているか</p> <p>・チーム分けが素早くできているか ・自分の役割を理解し、適切なプレーを選択できているか</p>
<p><まとめ> 片付け</p> <p>集合・本時の振り返り</p> <p>次時の課題の確認 号令・解散</p>	<p>○片づけをする</p> <p>○チーム内で話し合い、課題に対してどの程度理解し、活動できたかを共有する ○次時の課題を確認する</p>	<p>・次時に向けて、チームの課題を考え、共有できているか</p>

実践上の留意点

1. 授業説明

サッカーは1試合90分の中でボールを保持している時間を平均すると2～5分程度と言われており、試合時間の大半はボールを扱っていないオフ・ザ・ボールの状態にある。そこで、本授業ではオフ・ザ・ボールの状態でのプレーへの関わり方を考えることを目標とした。本時は2対2という少数のグループで行い、ボール保持者へのサポートの仕方を考えさせたが、熟練度による差が大きい内容であるため、より具体的なシチュエーションを例示して説明をする必要があったと感じる。また、理解はしているものの技術的にプレーが困難である場面を目にすることも多く、次時では活動の難易度を下げて考えさせるよう工夫したい。一方で、ゲームの中では活動に変化が見られた。前時までと比較すると、オフ・ザ・ボールの状態での活動に変化が見られ、全体の活動量は増加している。次時以降では、思考から活動へとつなげるための取り組みを考えていきたい。

2. 研究協議より

参観者より以下の点について助言を頂いた。

- ・生徒観から見える課題をどう解決させるかという手立てが見えないので、生徒の実態に合わせた課題の設定や、サッカーが苦手な生徒に向けた内容を準備する必要があると感じた。
- ・準備運動として実施した4対2・3対2は、熟練度の低い生徒に対しては主運動になる活動であり、けがのリスクを低減することは難しい。
- ・経験者の活動を見せる際に、より高度な状態を見せることで、目標とする姿が明確になるのではないかと。